

一 般 質 問

9月定例議会では、19人の議員が一般質問を行いました。
質問と答弁の内容を要約して、お知らせします。

なお、紙面の都合により、答弁者の名称について一部を省略し、掲載しています。

例 病院事業管理者 → 病院管理者

農業委員会会長 → 農委会長

選挙管理委員会委員長 → 選管委員長

農業生産者の痛みは、 国民も共有することが重要

市長／国の政策に基づき、市農業再生協議会を中心に推進



菅原 久男 議員

議員 農水省予算の概算要求に対する市長の見解は。

市長 国の「農林水産業・地域の活力創造プラン」に沿いながら地域農業の振興、農業者の所得確保に向け、経営所得安定対策や、ほ場

整備事業に取り組んでいることから、要求額の満額確保できるよう期待する。

議員 生産者は、生産者米価の低価格化などの厳しい状況下、農業のグローバル化による国際競争力の強化、痛みの伴う構造改革などに努力している。国民も状況不利益な面を共有すべきと考える。飼料用米のカントリーエレベーター建設は喫緊の課題であることから、

飼料用米の支援策としての市長の考えは。

市長 飼料用米については、国では平成37年までに110万トンの生産目標を掲げている。飼料用米の栽培の利点を生かせることから、市農業再生協議会においても推進している。栗っこ農業協同組合として「飼料用米専用の施設が必要」と聞いている。

将来的な主食用米の作付け動向や、既存施設の有効利用など関係機関と協議しながら検討する。

議員 市の土地改良事業の現状と今後の施策は。

市長 現在のほ場整備事業は、大規模区画による作業効率の向上、コスト縮減、さらには中心経営体への集積による「競争力強化」を目指している。整備率は現在57割。事業採択中・合意形成中を含めると60割を上回るものと見込んでいる。



栗駒のカントリーエレベーター



相馬 勝義 議員

こども遊びランドの継続を 市長／継続支援と民間支援を行う

議員 被災地における子ども支援を行うNPOの活動として、平成24年9月から志波姫、若柳地区の子ども達の居場所づくりのための活動を行っているが、法人からの助成が9月で終了、保護者住民が支援要望の署名を出していると聞いています。市としての考えは、

市長 6月に事業の継続を

求める要望書の提出をうけている。子どもの居場所づくり事業は、今後必要と考える、継続支援と民間事業者の子育て事業の支援を行ってきたい。



「湯浜下滝」周辺の登山道

栗駒登山道の復旧を

議員 湯湯温泉から湯浜温泉に通じる登山道は、6年経過しても、復旧されていないのが現状。登山道の一部である湯浜温泉から下滝の区間の復旧を望む。

市長 湯浜温泉から下滝の

区間は景観もすばらしく、登山者や写真愛好家の要望もあり、努力しているところであるが、一部道幅も狭く、沢沿いはロープがないと進めないなど、危険な状況であることから、今後の復旧については、関係機関と協議・検討していきたい。

鳥獣被害対策は万全か

市長／新たな有害鳥獣捕獲隊員の登録に働きかける



阿部 貞光 議員

議員 野生鳥獣による農作物等被害額は、全国で毎年200億円にも上り中山間地などでは甚大な被害となっている。政府では鳥獣被害の深刻化・広域化を踏まえ

鳥獣被害防止特措法を平成20年2月21日に施行。栗原市でも、平成24年度に鳥獣被害防止計画が策定されている。そこで、市の現状は、また、特措法では、交付税措置も0・5から0・8へと引き上げられる事になる。鳥獣被害対策実施隊の設置をもとめるがどうか。

市長 市の鳥獣被害額は、平成26年度で181万2000円に上り、有害鳥獣捕獲隊員は、平成27年度が84人で、5年間で21人の減少となっている。しかし狩猟免許取得者は、133人いるので、新たな免許取得者と合わせ



有害鳥獣として捕獲されたツキノワグマ

て隊員に登

議員 児童生徒の問題行動の予防・対応の為に学校・地域・家庭・関係機関を含めた連携が必要である。問題行動に対する対応マニュアルの作成を求めるとか。

市長 県教育委員会で作成している問題行動の指導資料などを活用し各学校に指導しているが、問題行動の背景にはさまざまな要因が複雑に絡んでいることから、先進的な取り組み状況を見ながら検討していく。

戦争法案を違憲と思うか

市長／市長として回答は出来ない



たけし 猛 議員
めまくら 沼倉

議員 戦争法案は、国民の6割以上が違憲とし、9割以上の憲法学者も違憲としている、市長は違憲・合憲どちらと思っているのか。
市長 安全保障関連法案については地方自治体の長と

しての発言は差し控えたい。

災害発生時の責任は

議員 高清水西大沢地区、栗駒八幡地区に太陽光発電機器設置の造成工事が行われている。大雨の時の土砂崩れなど心配であるが、市はどうかかわっているのか。また被害が出たときの責任はどこにあるのか。

市長 県と協議し「受理通



国会前の抗議デモ

市長 震災などへの対応、平成28年度以降の交付税縮減に対応したいと考えている。

知書」を出している。災害で被害が出た場合は、事業者が責任を明らかにすべきと考えている。県には指導の徹底を要望する。市も管理状況を注視していく。
基金は市民の負担 軽減に使い
議員 市の財政調整基金は平成26年度末で115億円になっている。
市では50億円ぐらいが必要と説明してきたが2倍以上のため込みになっている。一方、市民の総所得はこの約10年間で190億円減少しており、税負担は国保税で64割、介護保険料で36割引き上げられ両方とも県内で4番目に高い位置にある。ため込だけでなく国保税や介護保険料などの引き下げに使ってほしい。

揚水機場の維持管理補助の増額を市長／平成26年度と同率で支援



ささき こういち 議員
佐々木幸一



頼りになった揚水機場

議員 揚水機場補助金の補助率は、平成26年度より下がるが、今年は猛暑日が続く、揚水機場はフル稼働で農家負担が増えるので補助率を平成25年度と同率で補助すべきではないか。
市長 平成27年度の補助率は、平成26年度と同率で支援する。9月補正予算に提案している。
議員 平成29年度以降の補助率は、平成28年度と同率補助なのか。
市長 同率補助を続ける。

議員 東日本大震災の発生
修繕は
瀬峰公民館の雨漏り

に伴い、瀬峰公民館は雨漏りが発生した。公民館は多くの人が利用している。また、緊急避難所に指定されている。早急に修繕工事を行うべきではないか。
教育長 屋根の塗装工事を行ったが雨漏りの修繕に至っていない。地区の生涯学習などを担う重要な施設なので早急に修繕したい。
議員 修繕工事が現在までされない理由は。
教育長 応急工事を行い、その後、専門業者による工事の予算措置を図りたい。
議員 瀬峰・高清水中学校の再編
議員 瀬峰・高清水中学校再編の進捗状況は。
教育長 市立学校再編後期計画期間の平成31年度までに再編を進めたい。
議員 部活で瀬峰中学校にきている生徒の送迎を行うべきではないか。
教育長 部活動の生徒の送迎は考えていない。



たかはし かつお 議員
高橋 勝男

汚染牧草の堆肥化、その後の処分は

市長／実証実験を通し、今後の利活用を検討



私たちは何処へ、野積みされた汚染牧草

議員 汚染牧草の減容化に向け堆肥化する計画だが、その堆肥の処分をどうするのか。

市長 今回の実験で製造した堆肥の放射性物質濃度の変化や品質などを検証し、植物への放射性セシウムに移行を踏まえ、今後の利活用の可能性を探る。

議員 堆肥化に向けた事業費はいくらか。財源はどうするのか。

市長 実証実験の総事業費は4104万円、東京電力との事前協議では、経費は

賠償請求の対象との事から実験終了後に賠償請求の協議に入る。

議員 県や東京大学など多くの研究機関で同様の実験が行われ、結果も公表されている。市が独自に実証実験をする理由は何か。

市長 実験で作った汚染堆肥から作物へのセシウム移行調査を再検証し、汚染牧草処理に対する不安の解消を図り本格的な処理につなげたい。

議員 認知症患者を受け入れる介護施設の実態は。

市長 グループホームが16施設で定員が267人、デイサービスが5施設ある。認知症患者の入所希望待機者は、33人である。今後は、栗駒八幡地区にグループホームが11月に開所予定で、平成28年度にも1施設計画している。

議員 認知症が進んだ場合の対応は。

市長 医療行為が必要で、グループホームで見られない場合は、ケアマネージャーと相談し、特別養護老人ホームなどの施設に入所となる。

有害鳥獣駆除対策は

市長／猟友会に委託して捕獲



さとう ちかお 議員
佐藤 千昭

議員 狩猟免許所持者の高齢化や減少により、有害鳥獣の駆除が心配である。市では、どう対応しているか。

市長 県の計画に基づき、

猟友会に委託して、狩猟捕獲を実施している。市は、新たな狩猟免許取得者には積極的に有害鳥獣捕獲隊員に登録するよう働きかける。また、鳥獣被害実施隊の設置に向け検討する。

議員 繁殖力の旺盛なイノシシの目撃情報がある。広域的な捕獲方法の検討は。

市長 国は野生鳥獣の被害の深刻化、広域化に対応して、近隣市町村が一体となつた鳥獣被害防止の取り組みや侵入防止柵などの整備に補助をしている。この補助事業の活用に向け県や近隣

自治体から情報収集しながら事業活用のあり方について協議していく。

豪雪対策 国、県に対する要望は

議員 生活道路の確保は当然で完全な除雪政策が望まれる。豪雪地域の除雪対策について、国、県にどんな要望をしているか。

市長 国に、雪に強い地域づくりや、除雪の担い手の

確保と育成、少子高齢化社会に対応した豪雪対策などの支援、県に、国道398号の冬季閉鎖の早期開通や通年通行を強く要望する。

議員 生活道路の除雪はどうなっているか。

市長 除雪作業の容易な道路整備や、道路交通確保のための除雪計画を策定し、除雪対策を整備する。その他の質問事項



有害鳥獣の捕獲用箱わな



みうら よしひろ
三浦 善浩 議員

認知症の早期発見を

市長／理解を深めるための普及啓発の推進に取り組む

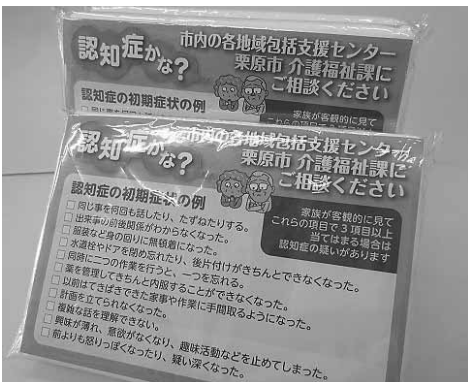
議員 ①認知症の高齢者数は。②認知症と気づくためのきっかけづくりに、高齢者本人や家族などが簡単に認知症を発見できるQ&A方式のチェックリストを作成し配布しては。

市長 ①平成25年度が3294人、平成26年度は3221人。②初期症状がチェックできるポケットティッシュを配布したが、気づきチェックリスト付きのパネルも配布している。

**ペイジー制度を
導入しては**

議員 各種の税金や利用料金などの確実な収納にむけて、口座振替の手續きにペイジー制度を導入しては。

(ペイジー制度では、市役所にキャッシュカードを持参するだけで、金融機関に行くことなく口座振替の申し込みができる。) **市長** 費用対効果と導入の必要性について検討する。



認知症チェックのポケットティッシュなど

ドライブレコーダーの設置を

議員 交通事故発生時の原因究明と適切な処理、ならびに職員の安全運転意識の向上を図るためにも、公用車にドライブレコーダーを設置すべきと思うがどうか。
市長 平成25年度から新たな更新車両には順次ドライブレコーダーを設置することとしている。現在、23台に設置している。

就労支援の充実を

議員 国家資格などの取得を目指す市民に経費を補助する事業に取り組んで。
市長 調査し、研究する。

総合的な子ども遊び場を

市長／当然、視野に入れて検討



さとう のりお
佐藤 範男 議員

市内児童遊園の実態は

議員 自然や野外で、自由な遊びを通じて、子ども達の創造性や感性、協調性などを育てるため、早急に、総合的な子ども遊び場を整備すべきだ。現在、市内35



人気のアスレチック木製遊具

カ所の児童遊園の設置環境や利用実態はどうか。
市長 児童遊園は、地域の身近な施設で、専門業者が年1回点検している。近年少子化などで、利用者は少なくなってきた。

子育て世代の意向は

議員 子育て世代を対象に子ども遊び場について、意向調査は実施したか。
市長 平成25年の子ども・子育て支援事業計画策定時

必要な付帯施設

に、未就学児童などの保護者2000人を対象にアンケート調査を実施した。「自由に遊べる広い公園がほしい」などの希望があった。

議員 子ども達が、野外で自由に遊べる環境を整備することは、行政の今日的な緊急課題である。なだらかな丘陵地を活用し、大型の木製遊具を備え、シャワー室や交流センター、駐車場などの付帯施設を完備した、大規模で総合的な子ども遊び場を、整備すべきだ。

市長 くりでん鉄道公園芝生広場の複合遊具などは、連日、親子連れでにぎわうことから、子ども達の健康増進や親子の触れ合いの場として、自然を生かした大規模で総合的な子ども遊び場は必要で、当然、視野に入れて検討する。

自治会館の未設置の解消を

市長／未設置9自治会から相談中



さとう 議員
佐藤 市長

議員 行政と市民生活を
なく自治会活動とその拠点
である自治会館は、きわめ
て重要である。

- ①会館の未設置があり、新
築・改築の要望は、ごつか。
- ②市街は、地価が高く用地
取得は困難、市有地への建
設を認めるべきである。
- ③人件費・資材が高騰して
おり、補助金(単価と上限
額)の引き上げをすべきで
ある。

市長 ①自治会253のう
ち設置231、未設置22で
ある。9自治体から相談を
受けているが、実施の事前
協議に至っていない。
②民有地がなく、活用予定
の無い場合は、建設できる。
他との公平性の観点から払
い下げ価格相当分を補助金



自治会館は地区活動・自主防災活動の拠点

から控除となる。
③床面積(140平方分の
例)1平方分当り、12万8
600円(2万3000円引
き上げ)と改定し、平成27
年度から適用している。

議員 入の沢遺跡は、古墳
時代前期で、竪穴住居跡、
大溝跡などが見つかかり、銅
鏡・鉄斧・管玉・珠文鏡な
どは、国内最北の出土例で
ある。

①未発掘地区の調査拡大と
現状での保存、国の史跡指
定を求めるべきである。
②築館ハイパス建設のルー
ト変更を強く求めるべきで
ある。

教育長 ①国・県・県教育
委員会などの協議を踏ま
えて、発掘調査の拡大と現
状での保存を検討する。

市長 ②積極的な要望活動
を行っていく。

再度問う学校再編計画

教育長／12月まで説明会を開催



たかはし 議員
高橋 教育長



学校は地域の主役

議員 宮野小学校の再編に
ついて、PTAが反対との
結果を出しているにもかか
わらず、説明会が未だ開催
されていない。なぜなのか。
教育長 PTAや地域住民
の考えを理解しているの
で本年度中に説明したい。

議員 入学時期が迫ってか
らの説明では遅い。保護者
や地域の不安を払拭するた
めにも本年度でなく12月ま
でに説明会をすべきである。

教育長 そのようなことで
あれば12月までに1度PTA
を対象に説明会を開催し
たい。

議員 平成27年度の全国学
力調査の結果、市の小・中
学校の学力が全国・県の平
均より低い。再編計画に問
題があるのでは。

教育長 再編前と再編後に
変化は見られない。因果関
係があるとは捉えていない。

ふたつと納税について

議員 自分の生まれ育った
自治体に寄付をすることに
より住民税の控除や返礼品
を得ることができる。しか
し本来の趣旨と違い返礼品
目当ての寄付が行われてい
る。市としての基本的な考
え、また寄付と支出のバラ
ンスは。

市長 市の印象を深め、地
域経済への波及効果を目指
しており、全国から多くの
寄付をいたたいしている。返
礼品については、過剰にな
らないよう適切に良識を持っ
て対応している。収支のバ
ランスについては、納税額
の2割程度が経費となつて
いる。



さとう ふみ お 議員
佐藤 文男

低米価対策は

市長／平成26年度は利子補給のみ



稲穂は重い気も重い

議員 生産費を下回る水準の米価で、稲作経営の再生産・存続そのものが危ぶまれる非常事態だ。米作農家の平成26年度の収入は平成25年度と比較してどれほどの減収で、昨年の米価暴落対策で、市はどのような支援を行い実績はどうだったかまた、平成27年度の支援策はどうか。

市長 平成25年度の概算金は1俵当たり1万1200円で、平成26年度は、8400円だ。直接支払交付金やナラシ対策を含め12億171万円の減収となる。また市の支援は「平成26年度

農業経営維持資金」への利子補給27万2222円だけだ平成27年度の支援は、関係機関と協議しながら検討する。

議員 TPP交渉で国会決議に反し大幅な譲歩案を示し早期妥結しようとしていることに對し市長の見解は

市長 大変遺憾だ。今後も交渉の行方を注視していく。

子育て支援策は

議員 幼稚園、保育所の施設整備が進められているがこれで待機児童が解消されるか。また、花山地区には保育所入所希望者はいないか。施設整備の計画はどうか。

市長 平成28年度から市内すべての幼稚園が3年保育になることから、既存の保育所は、低年齢児用に施設改修をすることにより、待機児童の解消につながる。

花山の保育所入所児童は6人で、保護者の勤務先に近い保育所を利用している。これらの経緯と花山地区の出生数の動向から、現状で対応が可能なため、保育所建設計画はない。

もぐり橋架け替えの全体計画を問う

市長／全長1200m、事業費は25億円



ささき おさむ 議員
佐々木 脩

議員 仮称、栗原東大橋（もぐり橋）の新設の全体計画はどうか。

市長 橋全体と取り付け道路を含め、全長1200m、総事業費は約25億4000万円になる見込み。

現在は橋梁と取り付け道路の予備設計を行って国、県、公安委員会との協議を進めている段階にある。

来年度に詳細設計を行い平成29年度、平成30年度の両年度で物件補償、用地買収、建物移転などを予定している。

平成31年度から工事に着手し、平成33年度の完成を目指している。

議員 今春、中田栗駒線（通称、川北バイパス）が並柳まで開通し、市街地の

交通量は緩和された。その一方で、石越へ向かう並柳県道に交通が集中している。石越では町の北側に道路を建設して交通量を分散している。

市長 この路線は市道大袋8号線として計画されており、第1期工事として中田

栗駒線から県道若柳花泉線までの256mが完工して8月に開通した。残る1140mについては用地買収、建物補償などの見直しや費用対効果などを含めて検討したい。

その他の質問

①総合支所への権限強化を
②市長訪台と交流見通しは
③学力テストの結果と対策などについて市長、教育長に答弁を求めた。



文字通り水没寸前のもぐり橋

9月4日を「栗駒山の日」

市長／ジオパーク機運を高めるため検討



議員 佐々木嘉郎

議員 平成20年6月、岩手・宮城内陸地震で本市は山間部を中心に甚大な被害を受けた。同年12月議会で私は、ジオパーク栗原に取り組んではどうかと一般質問した経緯がある。この9月4日、



一度は登ってみたい栗駒山

「栗駒山の日」に制定してはどうか。

市長 栗駒山は花の百名山として知られ、小さな尾瀬ヶ原とも呼ばれる世界谷地などの高層湿原は多様な高山植物が咲く雲上の楽園である。紅葉の美しさは日本一と言われ、穂高連峰の瀕沢に勝るとも劣らぬ日本屈指の絶景である。栗駒山麓が日本ジオパークの認定を受けたことで、あらゆる機会に市民に周知し、「栗駒山の日」の制定についても、その方策の一つとして検討する。

議員 栗原市民が栗駒山に登らなくなっているのは問題である。他からの人に栗駒山の宣伝をしても説得力が足りないのではないか。
市長 中学校や高校登山と合わせ、荒砥沢も見るといふ実験的なものを教育関係に声をかける必要性も思った。修学旅行や遠足でも同じ思いである。

住みよい市営住宅に改善を

市長／手すりの設置などをしていく



議員 小野 久一



階段、ぬれ縁の改善を

は木製であり材質の検討とあわせて修繕、長寿命化を図っていく。
議員 交通弱者対策の充実が求められている。市民バスだけでは多くの救われな人が出ている、デマンド交通の拡大や、現在きめ細かいルートで運行されているスクールバスに、乗車許可証を発行し乗せる手立てはとれないか。
市長 デマンド交通は多額の経費がかかり、拡大することは難しい。スクールバスへの乗車は学校統合の際スクールバス専用として運行するという約束がある。

最終処分場候補地の返上をせよ

議員 市営八日町住宅の土ほこり対策が不十分である。芝張りをしたらどうか。また入口の階段で転びげがをした人もいる、手すりが必要ではないか。大鳥住宅はぬれ縁が経年劣化でささくれが目立ち強度も不安であり早急の改善を求める。
市長 空き地への花の植栽も可能であり、美化活動に利用してほしい。転倒事故は承知しているので手すりの設置など適切な対策を検討する。大鳥住宅のぬれ縁

議員 6月議会の私への答弁で環境省が7月中に動かなければ（ボーリング調査に入る）返上すると言った。区長との懇談会では8月が限界だろうと言い、9月に入ると今後に進展がない場合と言っ、真意はどこか。すぐに返上すべきだ。
市長 市町村長会議の決定を重んじ、環境省の姿勢に一定の理解を示した。



みづか 三塚 議員

古代集落「入の沢遺跡」を守れ

教育長／遺跡は貴重であり国・県・県教委と協議中



「入の沢遺跡」を語るシンポジウム

議員 県考古学会は「入の沢遺跡」の保存とともに、国の史跡指定を視野に入れながら、将来に向けた整備と活用を図るよう要望書を提出している。市長・教育長はどのように受け止めているのか。

教育長 遺跡の保存と活動の要望書は、県考古学会と日本考古学会の埋蔵文化財保護対策委員会から提出されている。教育委員会としては、「入の沢遺跡」は貴重であると認識しているの

で、国土交通省、県、県教育委員会などと協議をしている最中である。また、地域活性化に向け、「入の沢遺跡」の取り扱いが確定された後に関係機関と協議をしていきたい。

国の研究機関 誘致したのか

議員 国は地方創生の一環として、省庁や国の研究機関などの移転リストを公表した。今後5年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめる「地方版総合戦略」の策定に向けた有効な手段だと思う。市は誘致を提案したのか。

市長 本年3月、国が定めた移転にかかわる募集要綱によると、提案の資格者は東京都、埼玉・千葉・神奈川県以外の道府県、または府や県域を超える広域連合となっていることから、市は誘致を提案しなかった。今後、募集があった場合は、必要に応じて県と連携しながら考えていきたい。

その他の質問

- ① 汚染牧草の減容化
- ② 滞在交流型の「観光圏」

スポーツパーク計画の白紙撤回を

市長／年内をめどに基本構想の素案を示したい



すがわら ゆうき 議員

議員 ホッケー場建設事業費9億5300万円、合宿所建設5億3930万円、さらに土地20畝の取得費、造成費、武道館的な体育館の建設が加われば数十億円

の大事業となる。財政計画にも検討反映されないまま

2020年の東京オリンピックにだけは間に合わせるといっては、到底市民が納得できるものではない。具体的な検討もなく予算化されたスポーツパーク基本構想2000万円を白紙撤回するよう求める。

市長 「策定検討委員会」や「懇話会」で協議を重ねている。設備投資や維持管理にかかる事業費の概算や、整備に必要な各種許認可手続きなどを調査するための

業務について作業を進めている。今後、スポーツパークの基本的な方向性に資する施設の内容や概算事業費等について、庁内検討委員会で検討を進め、年内をめどに基本構想の素案を示したい。

市内高校生の文化・体育施設使用料無料化に

議員 市内高校生の文化施設、体育施設の使用料を無料化にするよう求めるかどうか。

教育長 平成23年度から社会体育施設は7割減免、その他施設は5割減免としてきた。今後、使用料無料化について検討していく。

議員 新山揚水機場の管理修繕はどうなっているか。

市長 故障している機器の修繕は、上水道水で対応する。年間100万円の上水道料が発生するが、市で負担する。



適地とされている宮野地区

ジオパーク整備に力を入れよ 市長／本年度はジオガイドの養成などが中心



議員 瀬戸 健治郎

議員 栗原市ジオパーク推進室は新たな来訪者が期待



9月4日 日本ジオパークに認定

されることから「それぞれのジオサイトを整備することが必要」としている。これまで市民の皆さんや一般質問などで指摘されている改善箇所についての整備はどうか。

市長 本年度は説明看板の設置、小中学校向け副読本の作成、ジオガイドの養成などソフト事業が中心でオートキャンプ場は来年度からスタートさせたい。また、世界谷地の木道は県が三年計画で整備し第二温泉はその後に検討するとしている。民間温泉再開についてはできる限り応援していく。

議員 「ゆつくりひとめぐり栗駒山麓会議」の活用は。栗駒山麓ジオサイトめぐりや縦走登山、温泉めぐりなどそれぞれの魅力を生かし栗駒山を周遊できる観光ツアーを検討する。

市長 湯沢ジオサイトめぐりや縦走登山、温泉めぐりなどそれぞれの魅力を生かし栗駒山を周遊できる観光ツアーを検討する。

今後の展望と特に重視する施策は 市長／子育て・教育環境の充実



議員 高橋 義雄



架け替えが待たれるもぐり橋 (徳富橋)

め震災からの完全復興に取り組みとともに子育て環境の充実を最大の重要課題と考え後世を見据え着実に歩みを進めてまいりたい。

議員 特に栗原中央西線および仮称栗原東大橋の事業進捗状況と平成33年完成予定を前倒しできないか。

市長 栗原中央西線は平成32年度完成を目指し平成26年度末の進捗率は26%。仮称栗原東大橋は徳富橋の架替えと接続する幹線道路を整備するもので平成33年度完成を目指し来年度に詳細設計を行うが財源確保に努め、さらに早期完成に向けて努力する。

議員 スポーツパーク構想策定懇話会での検討内容・課題や築館高校の野球場の移転との関連は。

市長 懇話会では家族三世代が一緒にスポーツを楽しむための施設で場所はあくセスの利便性が高い宮野地区が望ましいなどの意見があった。これらの意見を踏まえて必要な調査を行い基本構想の素案を示したい。

副市長 野球場移転も県の要望を加味し宮野地区を適地として検討している。

議員 合併10周年の総括として市長の自己評価並びに今後の展望と特に重視する施策は何か。

市長 「市民がつくるくらしたい栗原」の実現のため観光産業の創出、雇用の確保、子育て支援の充実と若者の定住促進、教育や医療・福祉の充実など多角的な施策の展開と財政の健全化に努め、地方創生を先取りしてきたと自負しているが新たなステージに進むた

栗原市議会を傍聴して

私は、昨年から50年以上離れていた栗原にもどり、栗原市民となりました。

仙台に住んでいた時、20年以上議会傍聴を続けているグループに所属しており、その縁で6月議会を傍聴させて頂きました。

その時の参加者の声を紹介します。傍聴資料はしっかりと書いて、とても分かりやすかったです。一問一答は原稿をそのまま読むのではなく、自分の言葉で話されていたので聞きやすかったです。議員と市側の垣根のない雰囲気や市長の熱い答弁、方言交じりの人間味あふれるやり取りが面白く、好感が持てた。仙台市議会では事務的なやり取りが多く、すぐ眠くなるのにまったく眠くならず、もっと傍聴していたかった。残念だったのは、女性議員が1人もいなかったことです。

みなさんもぜひ一度、議会傍聴に足を運んでみてはいかがでしょうか。



佐藤 祥子さん
(栗 駒)

私もひとこと

最近思うこと



佐藤 行寛さん
(高清水)

先の国会では国民の理解が十分に得られないうままに、安保関連法案が成立しました。もっと時間をかけて慎重にすべきではなかったかと私は思いました。また市議会だよりの紙面を見ますと、最終処分場建設の質疑が掲載されておりました。重要な問題でありますのでさらなる討議、討論を要望致します。

私の住む高清水地区も高齢化の波が押し寄せております。小学生、中学生の減少に加え65歳以上の1人暮らし、2人暮らしの世帯が増加しております。医療、福祉対策の確立も必要ではないかと思えます。また、少子化改善に向けた、充実した子育て支援政策も重要ではないでしょうか。

誰もが安心して住める栗原市のさらなる発展を期待します。

あそびがき

「市議会だより」の読者は、市民の皆さんです。これからは、選挙権年齢も18歳以上となることから、若い人たちにもわかりやすい紙面づくりをすることが、より求められると思います。議会が決まったことが実は、生活に密着しているということ伝えるのも「市議会だより」の大切な役目だと思います。そして、市民の皆さんが栗原市議会に関心を持ち注目していただけるよう努力していきます。今後、地方創生は市民の皆さんと一丸となって推進していく大きな課題であると考えます。その意味においても、特に若い世代の政治参加が進むことを大いに期待します。

広報編集調査特別委員会

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 三塚 東 |
| 副委員長 | 三浦 善浩 |
| 委員 | 佐々木 幸一 |
| 委員 | 高橋 渉 |
| 委員 | 五十嵐 勇 |
| 委員 | 佐々木 嘉郎 |
| 委員 | 小岩 孝一 |
| 委員 | 佐藤 文男 |
| 委員 | 佐藤 悟 |
| 議長 | 長濁 沼一孝 |